

令和3年度第1回 安曇野市まちづくり推進会議 会議概要

- | | | |
|---|-----------|---|
| 1 | 審議会名 | 令和3年度第1回安曇野市まちづくり推進会議 |
| 2 | 日 時 | 令和4年3月23日(水) 午前9時30分～午前11時30分 |
| 3 | 会 場 | 安曇野市役所本庁舎 大会議室 |
| 4 | 出席者 | 田村会長、熊井副会長、佐々木委員、吉原委員、沼尾委員、磯野委員、羽重委員、相馬委員 計8名 |
| 5 | 市側出席者 | 市民生活部山田部長、地域づくり課高橋課長、児玉課長補佐、寺島主査、土屋会計年度職員 |
| 6 | 公開・非公開の別 | 公開 |
| 7 | 傍聴人 | 0人 記者 0人 |
| 8 | 会議概要作成年月日 | 令和4年3月25日 |

協 議 事 項 等

1 会議の概要

委嘱書交付

- (1) 開会
- (2) あいさつ
- (3) 安曇野市まちづくり推進会議設置要綱について
- (4) 会長及び副会長の選出
- (5) 協議事項

①提言事項の進捗報告

- ・全市的な見守り、支え合い、助け合いの仕組みづくりについて
- ・区の意義や重要性の理解促進の取り組み状況について

- (6) その他
- (7) 閉会

2 協議事項概要

- (4) 会長及び副会長の選出

- ・会長に田村浩委員、副会長に熊井深男委員、大澤克己委員を選出

【会長】

- ・安心で安全な市を継続・発展させていくため、会が果たす役割は大きい。

【副会長】

- ・超高齢化社会を迎え、今まで経験したことない時代に入る。会長とともに会議を進めていきたい。

- (5) 協議事項

- ・全市的な見守り、支え合い、助け合いの仕組みづくりについて

【事務局】

- ・資料に基づき、「全市的な見守り、支え合い、助け合いの仕組みづくり」に関する各主体の

取り組み状況を報告した。

【委員】

- ・「区が何をしているか分からない」「区に加入するメリットが分からない」といった理由から、区に入らない人がある。区への加入はメリット・デメリットで考える話ではない。積極的に情報を公開し、区が支え合い、助け合いに必要だということを分かっていたかしかかない。
- ・区の組織が縦割りになっている点も課題だ。区長が区や区民にもっと向き合うため、市区長会事務局の仕組み作りを検討してほしい。

【委員】

- ・広報の充実に関連し、「協働のまちづくり出前講座」の開催状況を聞きたい。

【事務局】

- ・令和3年度は60件が開催された。新型コロナウイルス感染症の影響で、以前より開催数が少なくなっている。
- ・防災や健康づくりなどのメニューが人気で、区関係者にも利用いただいている。

【委員】

- ・ぜひ出前講座を積極的に発信し、活用を進めてほしい。

【委員】

- ・ある区は部制度導入で福祉部長が作られ、全区民にアンケートを取った結果、「支え合い制度」が発足した。部制度導入の成果と言える。
- ・コミュニティスクールについて、従前の信州型から国型に移行すると何がかわるのか。

【事務局】

- ・コミュニティスクールの件について詳細は学校教育課のため、後日回答する。

【委員】

- ・各主体の取り組みが少しずつ前に進んでいると感じる。ただ、全市的に広がるにはまだまだ時間がかかる。
- ・高齢者は買い物や病院に行くにも大変であり、全市的に高齢者対策を考えていかなければならない。

【委員】

- ・徐々に提案内容が実践されていっていると感じる。
- ・白金区やアルプス区など先進的な取り組みは、実現までに年単位の努力があったと思われる。両区の取り組みをいかに水平展開していけるかが大切だ。
- ・区が何をしているか知っている区民が多いほど、区への加入率が高いように考えられる。

- ・区の意義や重要性の理解促進の取り組み状況について

【事務局】

- ・資料に基づき、「区の意義や重要性の理解促進の取り組み状況について」に関する各主体の取り組み状況を報告した。

【委員】

- ・市民活動サポートセンター通信は、各区の回覧文書で回せるよう検討してほしい。

【委員】

・区の負担軽減に関連し、「市からの依頼事項はできるだけ精査して区長へ依頼している」とあるが、どの程度負担軽減ができたのか。

【事務局】

・負担軽減は途中段階であり、まだ数値として示せるものはない。

【委員】

・5地域ごとに地域区長会が開かれているが、市からの依頼事項でほとんどの時間が終わる。面と向かって情報交換する時間が足りないため、地域区長会の開催数を増やしたらどうか。

【委員】

・地域区長会はどういった範囲で行われているのか。

【事務局】

・旧5町村ごとに年4回開かれている。

【委員】

・新型コロナウイルス感染症の対応を巡り、攻めの姿勢の区と守りの姿勢の区に分かれているように感じている。

・区内の組織が縦割りという話があったが、白金区は横の連携が強い。最も小さな単位である隣組が顔の見える関係になっている点も良い。

【委員】

・コロナ禍で区がどう動くかが重要だ。多くの事業が中止になり、区の衰退につながる。ただ事業をやめるのではなく、どう事業を復活させるかも課題となる。また、本当に事業をやめるのであれば、どう説明するかも考えなければならない。

【委員】

・重要な指摘だ。コロナ禍はある意味で、やめてもよい事業を精査する絶好の機会だ。

【委員】

・コロナ禍で行事が中止となり、役員からは「何もやらなくてよかった」という声もある。1、2年の間、事業を行わない状態が続き、見直しするのに絶好の機会かもしれない。

・高齢化する中で役員のなり手不足を心配する声も上がっている。役員の免除なども検討していかなければならない。

【事務局】

(6) その他

【委員】

・資料の中で、市は解決実践者に対して、課題解決の進捗状況あるいはその結果の報告を「求める」とあるが、上から目線に感じる。「依頼する」などに変えた方がよい。また、各団体が「申請する」という文言もあるが、こちらも表現を変えた方がよい。

【委員】

・市民活動サポートセンターの現状は、地域づくり課の前に看板があり、1階東ロビーにスペースがあるだけだ。場がほしいという要望は以前からあり、この会議でもセンターについて議論していただきたい。

(午前 11 時 30 分終了)